佐賀の七けん人

大隈重信

元気がでる名ぼうのことば

コロナかんせんしょうにまけないのであるんであるんであ〜る!!

わたしはろくおんされた大隈重信のえんぜつを大隈重信記念館できいたことがあります。大隈重信はえんぜつがとても上手で、きく人が元気になるようなことばをよくいっていたそうです。ことしはかんせんしょうでたいへんだからこそ、みんなが元気になれるような大隈重信のことばをしらべてみることにしました。

大隈重信ってこんな人!

わせだ大学をつくった人、なかくそうりだいじんを2回した人でゆうめいですがじつは今もあるいろんなことをかんがえた人としてびっくりしました。

1、日本のお金を「円」にした。
2、今までの「太陰暦」から、西洋と同じ「太陽暦」とした。
3、日本のてつどうをしいた。
4、日本やきゅう初の始球式をした。
5、ウィーン万国はくらんかいでは、じむをとくそうさいに!

ちなみに
佐野常民がふくそうさい。「佐賀七けんじん」の2人が日本をだいなえて世界にいくなんて、わたしがすんでいる佐賀ってすごいなあ!!とおもいました。

よむと元気になれる 大隈重信のせいじか五訓

三井子は はの2かいにがんきょうやをつくりました。そこには重信が元気ようにねむたくなった時にたべるおやつなどがうっている「てっぱん」がありました。

1、ものごとはらっかんてきに見よ
2、おこるな
3、ぐちをいうな
4、むさぼるな
5、よのためにはたらけ

ごっつん!

これは重信のおかあさん三井子が重信が小さいときにおしえてくれた「人生五訓」がもとになっているそうです。

人生五訓は
1、けんかをしてはいけません
2、人をいじめてはいけません
3、いつも先を見てすすみなさい
4、すぎたことをくよくよふりかえってはいけません
5、人がこまっていたらたすけなさい

重信のおかあさんの「人生五訓」はわたしもみのとおりだとおもいました。

「せいじか五訓」の中の「2、おこるな」ですが重信のおこったすがたを見た人はほとんどいないそうです。なぜおこらないのかと人にきかれて、「ろうにかぎにこわることがあればまずすきなふうにはいるをえれてもいかりがしばらくないとそはさびをいうばいのむ。それでもだめなときはねる。そうれはいいさいのいかりはなくなってしまう。」といったそうです。

わたしもきょうだいとけんかをして、おこってしまいそうになったときは大隈重信式でやってみたいです。

方なみに自分の命をねらってきた人たちをもゆるしたそうです。すごいなあ。

やぶれて勝つ

「大隈侯一言一行」より

重信はいっぱいいっぱいもしたけれど、それでもあきらめずに「しっぱいにうちかたなければならぬ、しっぱいにくらたんしてはならぬ」といっていたそうです。

ちなみに
重信は佐賀のおかしまるはうろが大好きだったので、今回のまるのうちは、まるはうろにしました。
重信が大好きな大石もしょうかいします。

七回うまれた重信の石像はホルマリンづけになっていて、今、佐賀県立博物館にあるそうです。
ここに重信のお墓もあります。

125尺 ≒38メートル。

名ぼう

人間はぼうによってせいかつしている。名ぼうそのものは人間のいのちである。

(1909年、春季校友大会にて)

重信は、いろんなむずかしいことにぶつかってもけっしてあきらめないで名ぼうをもっていろいろなことをやったそうです。ちなみにわたしのなまえにも名がついていて、わたしもあきらめないで名ぼうをもって、がんばりたいです。

まとめ

わたしは2年前にわせだ大学に1年前に重信がこわさないようにいったといわれるひこうき山を見にいきました。またわたしはいじんのでんきをよむのがすきです。ことしの夏やすみにいじん25人のでんきをよんでかんそうをかきました。大隈重信のこともかいて、とてもすきになりましたほかにも重信が今の「円」をつくったりしたことをして、わたしがすんでいる佐賀にはかずかず人がいたそうれしくなりました。ことしはかんせんしょうでたいへんだったけど、わたしも重信みたいに「みんながえがおで元気になれるようなことばをいっていきたいのであるんであるんであ〜る。」とおもいました。

『佐賀幕末維新 八賢伝』(出門堂) 『覚えておきたい幕末・維新の100人』(三省堂) 大隈重信記念館パンフレット 『デジタル大辞泉』(小学館)